

毎日フォーラム・スーパーシート

アクサ生命保険社長兼CEO 安淵聖司（67）

2023/3/10 09:40(最終更新 3/10 09:40) 有料記事 1479文字



安淵聖司氏

生き生きとした社会を企業発で推進

「不将不迎」。中国の「荘子」に記されていた格言で、「将（おく）らず、迎（むか）えず」と読むこの言葉と出会ったのは、三菱商事時代。国内外の支店勤務を経て米国のハーバード大経営大学院に留学し、帰国後、諸橋晋六会長（当時）の業務秘書をしていたころだ。「過ぎてしまったことはくよくよしない。まだ起きてもないことに思い悩まない」という意味で、言うなれば「目の前の課題に集中せよ」という教え。諸橋さんの人生訓だった。

会長の補佐をする私は課長クラス。そんな私に諸橋さんは「君は人として、どう思うか」など率直に問いかけた。その日の仕事が終わって「ちょっと酒でも」という時や海外出張で同行

した際、苦労話などもしてくださる。大漢和辞典を編さんした漢学者の諸橋轍次さんを父に持ち、「三男なのにどうして晋六なのですか」とお尋ねすると、「この漢字にはこういう意味があって」と詳しく解説。また、自分の責任、会長に就いた意味をしっかりと考えておられた。会長秘書を務めたのは39歳から41歳までの2年半。そして、「不将不迎」は私自身の座右の銘になった。

金融のプロフェッショナルを目指そうと思った私はその後、投資銀行などを経て、GE（ゼネラル・エレクトリック）の金融部門であるGEコマーシャル・ファイナンスに入社し、1年ほどで日本法人のCEO（最高経営責任者）になった。ところが試練がやってきた。リーマン・ショックだ。若手や中堅の社の精鋭を集めて「トゥモロー・コミッティー（明日の委員会）」を結成

し、メンバーには「自分たちで未来をつくっていく気持ちで臨んでほしい」と伝えた。「我々の強みは何か」「それを維持するにはどうするか」など協議を重ね、この困難を乗り切った。

長く金融業界を歩んできた私に、パリにグループの本部があるアクサから、声がかかった。人生に触れ、困難を克服する、あるいは人々が健康になることを助ける。同じ金融でも、私たちのアドバイスで人の人生がよくなるという仕事は初めて。仏系なのでグループのCEOはフランス人かと思いきやドイツ人。人事の責任者はアフリカ系フランス人の女性。こうした多様な人々の中に入って行くのであれば私にも十分できると思った。

アクサの日本法人は1994年に設立され、前身の一社である日本団体生命は34年に初の団体保険専門会社として誕生。初代会長は日本商工会議所会頭が務めた。そのネットワークを生かし、地方の中小、零細企業の福利厚生を、保険を通じてサポートしている。サステナビリティで力を入れているのはインクルージョン&ダイバーシティ。その一つが「日本ブラインドサッカー協会」との協働だ。「視覚障害者と晴眼者が当たり前混ざりあう社会を実現する」というビジョンに共鳴した。しかも「すべての人々のより良い未来のために。私たちはみなさんの大切なものを守ります。」というアクサの存在意義を体現できる。

日本が開かれた国になり、企業は社会に向かって開かれる。属性にかかわらず、みんなが生き生きと暮らし、働く社会にしていくことを、企業発で推進していきたい。

やすぶち・せいじ 1955年神戸市生まれ。79年早稲田大政経学部卒、三菱商事入社。90年米ハーバード大経営大学院修了、MBA取得。UBS証券などを経て2006年GEコマーシャル・ファイナンスのアジア地域事業開発担当副社長。07年日本法人CEO（最高経営責任者）。09年GEキャピタル社長兼CEOに就任。17年ビザ・ワールドワイド・ジャパン社長。19年から現職。

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.